



うしろう  
羽觴

三月三日、侍朱雀院柏梁殿、惜残春

菅家文草（西暦〇〇〇年頃）

惜春何到曲江頭

遙憶羽觴浪上浮

もう誰も言わなくなりましたけれど、昔の中国の酒盃には、よく小鳥の飾りを付けていました。羽が付いていますから、小鳥が行ったり来たりする様を指し、盛んに盃を交わして酒を飲むことを「觴さかずきを飛ばす」と云うのです。

朱雀院は、元は嵯峨天皇の離宮でしたが、後に宇多天皇が上皇になった時に柏梁殿はくりやうでんで和歌の宴会がよく開かれました。その後、朱雀天皇も譲位後の御所にしました。

三月三日は桃の節句です。しかし、旧暦の三月は晩春でしたから、早春の梅花の季節ではないでしょう。花が何であれ、春を惜しむのは穏やかな季節が移りゆくのを、止めておきたいという人の心情なのです。

令和三年二月二十五日

大中臣正比呂